

日本共産党

# 青年学生10万人

# 対話で希望を

街頭で青年と対話する、もとむら伸子衆院議員、長内史子党愛知県青年学生部副部長＝2020年12月24日、名古屋駅前



二

人の対話・民言同明会員15人、党員10人の拡大を目標に、①新成人との対話②青年の「集い」を開き、党員の子や孫など党の結びつきに広く案内する③地区内にある3大学の入試での対話・宣伝④学生対象の無料弁護士相談など、4つの取り組みを提起し、党の結びつきを出し合い、対話をスタートさせていま

A photograph showing two young men in black t-shirts and white surgical-style masks standing behind a table. The table is covered with various food items, including bags of flour, boxes of cereal, and other packaged goods. They appear to be organizing or preparing the food supplies.

地域、職場、学園の民青班は、多彩な要求運動と合わせて『日本共产党綱領セミナー』『マルクスと左派』『左派になろう』などのパンフレットで日本共产党綱領と科学的社会主义を学び、社会の担い手として成長することを目的に活動しています。

民青も政権交代・  
党連合政権実現の二  
と並れるよう、広範  
青年・学生に「政権  
交代を実現させるた  
にともに学び行動  
よう」と加盟をよび  
けています。

あわせて、コロナ危機のもと資本主義のシステムそのものを問いつぶす流れが青年・学生の中でも広がっています。日本共産党綱領と科学的社会主義を学び成長することができる唯一の青年組織が民青です。社会主義への展望も大いに語り、民青拡大に全力をあげます。

日本民主青年同盟愛知県委員会は、昨年3月以降1000人の青年・学生から実態アンケートで声を集め、記者会見、国・県・市への要請、野党国会議員

との懇談などをおこな  
い、青年の実態を可視化してきました。6回から始めた食料支援生活相談会（「ほ」ほこ愛知プロジェクト）は県下、13カ所で40回

間で122人の新同  
員を迎へ、同盟員等  
の目標にむけて奮闘  
しています。

事業として取り組み  
党の県・地区は、対応  
する民青班を再建・強  
化「すると決めていま  
す。

県内の車修学校生は「親の事業の業績が悪化。つぶれれば生活できなくなる」「一人親で父親が失業。自分のみたい」と語る青年ばかりで、大企業優先だとと思う。共産党はぶりていい。もっと共産党のことを勉強して

結びつき

学び・行動する民青

日本共産党は12月の  
第2回中央委員会総会  
で、「民革同盟員の拡

発行所 愛知民報社

〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目 12 番 25 号  
愛知あかつき会館内  
☎(052) 251-2925 F A X (052) 261-6063  
定価 月 400 円 郵送料 168 円 1 部 100 円  
毎週日曜日発行（第 5 日曜日は休刊）  
1966 年 7 月 31 日第三種郵便物認可

日本共産党は今年必ずやなれる総選挙の比例代表選挙での「850万票・15%」実現の土台をつくるため、「総選挙躍進・1千万对话・党勢拡大特別期間」に取り組んでいます。「特別期間」の4月末までの愛知の対話目標は50万。うち青年・学生で10万人対話をめざします。(取材・記事)日本共産党愛知県委員会青年学生部 都出浩介、長内史子、倉石彩美

# 新型コロナ危機で苦難 青年・学生に大きな変化

日本共産競愛知県連  
年・学生後援会は12月  
24日夜名古屋駅前で  
もとむら伸子衆院議  
員、長内史子青年学生  
部副部長（両東海比例  
候補）と名古屋駅前で  
「日本共産党の若者政  
策アンケート」とシーラン  
アンケートに取り組  
み、通行する青年と対

「バイトも少なくなり、学校に通い続けられるか不安」と話します。法政大学2年生は、「国際政治や経済学を学ぶ中で日本の政治に疑問が出てきた」と答えました。「若者政策アンケート」で共感する日本共产党の政策を聞くと、も。「消費税減税」にシールを貼った高校生は、「いまの政府だと絶対にやらない。政権交代すれば状況は変わる」と思つ」と感じました。後援会員は「変化する青年・学生に『5つの提案』と政権交代の希望を伝えて10万人対話

# 共産党に期待の声 宣传でつながり入党

# 共産党に期待の声 宣传でつながり入党

本民主青年同盟(民青)に加盟し、共産党に入党する青年が広がっています。

12月に犬山市で入党した20代の青年は、駅頭や大学門前での宣伝で民青に出会い、「自民党政権は末期状態。コロナ禍のもとで、日本の経済をどうしていくのか、民青に入り資本主義、社会主義について学びたい」との月に加盟。その後、コロナ危機を受けて仕事と

収入が激減、仲間の同賛が「収入減は自己責任ではない」と励ましてきました。

地元の共産党議員の訴えに入党を決意しました。「コロナ危機で資本主義の限界が見えるようになってきた。自民党政治の腐敗もその中で明らかになつてきました。そんな時に共産党の国会論戦を見て、日本にもこんなまどもな政黨がまだあつたのかと思うようになつた。共産党が政権交代

の田村議員の質問を見て感動し、それから共産党について調べるようになつた」「政権批判の立場が明確な、しんぶん赤旗を読んでみたかった」など、高校生や大学生からも党や「赤旗」への新たな注目と期待が寄せられ、民青に加盟する青年が生まれています。